



**目次**

はじめに	
第1章	基本事項
1-1	一般事項
1-2	策定の背景
第2章	環境にやさしい公共建築整備手法
2-1	本基準の構成
2-2	整備基準項目の基本事項
2-2-1	環境保全対策に基づく分類
2-2-2	対策レベルの設定
2-2-3	関連項目の掲載
2-3	与条件の分類・定義
2-4	評価方法
2-4-1	評価方法について
2-4-2	相対評価
2-4-3	絶対評価
2-5	本基準の使い方
第3章	整備基準項目
3-1	整備基準項目一覧
第4章	評価
4-1	総合評価表
4-2	評価事例
資料	ソフトの使い方
	愛知県地域特性
	用語集
あとがき	
CD-ROM	1枚 基準項目抽出/評価用
別冊	実務マニュアル/資料編

**第1章 整備基準項目別詳細シート**

1-1 シートの使い方、凡例

本整備基準には、基準項目ごとに実務をサポートできるように詳細シートが設けられている。詳細シートは、設計者、施工者、保守管理者、運営者にとっては各事業を「環境にやさしく」行うためのマニュアルとして、施主側にあたる担当者にとっては指導マニュアルとして、評価を行う者にとっては評価を行うときの支援ツールとして使うことを目的としている。

詳細シートは各基準項目に対して1ページで構成されており、整備基準項目を実施する際に参考となる情報などを可能な限り掲載した。

詳細シートに掲載している事項は、環境保全対策、与条件、解説、留意点、効果、関連項目、関連する条例の他に、地球環境テーマ(生態系の保護、エネルギー、水、資源と材料、室内環境)も示している。地球環境テーマは、基準項目と地球環境問題との接点を示そうと試みたものである。

詳細シートに示されていることは基本的な考え方や実施すべき事項であり、これらを活用してそれぞれの事業に応用していくことを意図している。

**<凡例>**

環境保全対策(「環境にやさしい県有施設整備指針」による分類)

I 整備推進	II 大気環境	III 水環境	IV 大地緑化
V 安全快適	VI 省資源・省エネルギー対策		

建築生涯における各段階

企画	設計	建設	維持保全	除却
----	----	----	------	----

地球環境テーマ

生態系の保護	エネルギー	水	資源と材料	室内環境
--------	-------	---	-------	------

与条件

新築	改修更新	改修	地域性 I~VII
----	------	----	-----------

効果

環境性	省エネルギー性	経済性	快適性/健康
-----	---------	-----	--------

III 水環境      V 安全快適

V-2 快適空間の創造      V-2-02

III-2 汚染排水防止と排水処理      企 設 建 保 除

排水処理

**動植物、自然現象を利用した汚染浄化システムを用いる**

**解説:** 植物の栄養塩吸収能力と植物基盤の浄化能力を利用して、汚染の浄化を行うもので「リベンジマシソン」と呼ばれる。人工的に湿地・沼を設けて水が溜まるようにし、浄化した後に放流するシステムでは、敷地内のビオトープや生物生息空間も兼ねることができる。

※「ビオトープ」説明は、用語集(本編)参照

**用途**

<input checked="" type="checkbox"/>	事務庁舎
<input checked="" type="checkbox"/>	学校
<input checked="" type="checkbox"/>	病院
<input checked="" type="checkbox"/>	貸館ホール
<input checked="" type="checkbox"/>	研究施設
<input checked="" type="checkbox"/>	宿泊業
<input checked="" type="checkbox"/>	住宅

**規模 (延床面積)**

<input type="checkbox"/>	2000㎡未満
<input checked="" type="checkbox"/>	2000㎡以上

**建設コスト**

<input type="checkbox"/>	安い
<input type="checkbox"/>	標準
<input type="checkbox"/>	高い

**構造**

<input checked="" type="checkbox"/>	RC造
<input checked="" type="checkbox"/>	SRC造
<input checked="" type="checkbox"/>	S造
<input checked="" type="checkbox"/>	木造

**留意点:**

- ・ 初期コストが高いため、大規模開発にて採用を検討する
- ・ 都市部での採用は、衛生、安全面で困難である
- ・ 関係諸官庁の許可、指導を得た上で計画する

**効果:**

	生態系の有効利用
	地域生態系の保全
	土質機能の改善
	人工的な浄化ろ過装置不要

**関連項目:** V-2-01、III-2-02

**関連する条例など:**

**参考資料:**